



CHIBA
UNIVERSITY

亥鼻 IPE 学習ガイド

千葉大学

目次

I. 亥鼻 IPE の目的.....	1
II. 用語の説明.....	2
1. 患者・サービス利用者中心の医療.....	2
2. 専門職（professional）.....	2
3. 専門職連携実践：IPW（Interprofessional Work）.....	2
4. 専門職連携実践能力.....	2
5. 専門職連携教育：IPE（Interprofessional Education）.....	2
III. 亥鼻 IPE で身につける能力.....	3
IV. 亥鼻 IPE の内容.....	4
V. 亥鼻 IPE の原則—グランド・ルール.....	5
VI. 亥鼻 IPE の学習方法.....	6
1. 体験による学習.....	6
2. グループワークによる学習.....	6
3. ふりかえりによる学習—リフレクションとポートフォリオ.....	6
VII. e ラーニング学習管理システム（moodle）.....	7
1. 千葉大学 moodle の活用.....	7
VIII. 提出課題と提出方法.....	7
IX. 評価方法.....	8
X. 持参物.....	8
XI. わからないことがあれば.....	9
XII. 専門職連携教育研究センター（IPERC:Interprofessional Education Research Center）.....	9

I. 亥鼻 IPE の目的

亥鼻 IPE が目指すのは、「患者・サービス利用者中心の医療」を担う「自律した医療組織人の育成」です。

これからみなさんは、各学部の専門教育のなかで懸命に学び、保健・医療・福祉などの現場で必要とされる専門知識や技術、態度を身につけていくことでしょう。一人ひとりが高い専門性を身につけることは、人びとの治療やヘルスケアを担ううえで最も必要なことです。

しかし、一人ひとりの能力がいかに高くとも、皆が別々の方向を向き、ばらばらに行動しては、これらの現場の組織の中で、その成果を最大限に上げることはできません。したがって、これからの保健・医療・福祉に携わる専門職には、自らの専門性を発揮するのみでなく、さまざまな領域の専門職と連携し協働できる能力が求められています。

領域横断的な連携・協働は、急速な医療の高度化・多様化への対応、医療事故の防止、職場環境の改善など、医療現場のさまざまな課題を克服していく核となります。また、専門職（professional）としての役割を十分に果たし、その公共的な使命である「患者・サービス利用者中心の医療」を実現していくために不可欠なものです。

このように、さまざまな専門職が連携し協働することを、IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）といいます。そして、IPW を可能とする能力（専門職連携実践能力）と、連携・協働を通してともに学び合う姿勢を身につけるためのプログラムを、私たちは IPE（Interprofessional education、専門職連携教育）と呼んでいます。

千葉大学では、平成 19 年度より、医療系 3 学部の医学部、看護学部、薬学部が連携・協働し、キャンパスの名前を冠した「亥鼻 IPE」に取り組んできました。「亥鼻 IPE」は、3 学部とも必修の 4 年間にわたる段階的プログラムです。選択科目ではなく、必修科目としているのは、専門職連携実践能力と実践のなかでともに学び合う姿勢は、段階的・継続的な経験によって徐々に変化・獲得できるものであり、教育機関の責務として確実に育成すべきものと捉えているからです。

平成 29 年度からは、STEP1 に工学部の総合工学科医工学コースの学生さんも参画することになりました。今後幅広い領域から「患者・サービス利用者中心の医療」を実現するための専門職連携について議論していけることが期待できます。

わたしたちは、「亥鼻 IPE」を通して、高い専門性と患者・サービス利用者を中心とする意識をもち、さまざまな専門職と連携し、高め合い、学び続ける「自律した医療組織人」の育成を目指しています。どのような場所でも、どのような組織のなかでも、IPW を自ら推進できる能力を身につけた人材を育て、「患者・サービス利用者中心の医療」を実現できる医療組織、社会になっていくことを目指しています。

これから、「患者・サービス利用者中心の医療」を担う「自律した医療組織人」になっていくため、学生、教員、実践者あわせて、「亥鼻 IPE」でともに学び合ってください。

II. 用語の説明

1. 患者・サービス利用者中心の医療

患者（疾病をもち、治療の対象となる人）、および、サービス利用者（疾病の有無にかかわらず、ヘルスケアの対象となる人）と、その家族の意思（選択や決定）が尊重される医療。

2. 専門職（professional）

利他主義を前提とした倫理観、高い専門知識と技術をもち、自律し、公共的な使命を果たす人。

1. 専門職は、その専門性により独占的権限と自律性をもつため、より一層利他主義を前提とした態度が求められます。また専門職組織は自らで倫理規定を制定しています。
2. 専門職は、その実践基盤となる専門知識と技術の獲得のために、長期的で高度な教育体系をもち、その能力を保証する免許や認定の制度を備えています。さらに基礎教育課程終了後も、日々の実践をふりかえり、より自分自身を高めていく姿勢と生涯学習が求められます。
3. 専門職は、スペシャリスト（specialist、有能な実務家）に留まるのではなく、その専門性を発揮し、社会の安寧と公共の利益に貢献する者としての自覚が求められます。（profess は、社会に対し表明する（公言する）という意味。その表明の内容は、自分個人の利益に関するものではありません。）

3. 専門職連携実践：IPW（Interprofessional Work）

“interprofessional”という言葉は、“inter”（「相互の」）と“professional”をつなげた造語であり、IPWは「複数の領域の専門職が協働して実践すること」と定義されています。IPW のためには、各専門職が役割を果たすだけでなく、平等で相互尊重のある関係性や、共通の目標も必要です。

上記を踏まえ、「亥鼻 IPE」では、IPW を「複数の領域の専門職および、患者・サービス利用者とその家族が、平等な関係性のなかで相互に尊重し、各々の知識と技術と役割をもとに、自律しつつ、患者・サービス利用者中心に設定した共通の目標の達成を目指し、協働すること」と定義しています。

4. 専門職連携実践能力

専門職連携実践を可能とする能力。（Ⅲでより具体的に触れます。）

5. 専門職連携教育：IPE（Interprofessional Education）

英国のCAIPE（Centre for the Advancement of Interprofessional Education:専門職連携教育推進センター）は、IPE を「複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所で共に学び、お互いから学び合いながら、お互いのことを学ぶこと（CAIPE 2002）」と定義しています。

この定義では、IPE は教育機関における学びとは限定されず、さまざまな場や実践をとおしての学び合いとして捉えられています。つまり、専門職連携実践能力は、教育機関で身につけるのみでなく、医療現場での実践を通して学び合い、生涯に渡って身につけていくものと考えられているのです。

千葉大学では、このようなCAIPEの定義をもとにしつつ、IPE を「どのような場所でも、どのような組織のなかでも、専門職連携実践を可能とする能力を身につけ、実践のなかでともに学び、お互いに学び合いながら、お互いのことを学ぶ姿勢を身につけることを目指した教育」と捉えています。

Ⅲ. 亥鼻 IPE で身につける能力

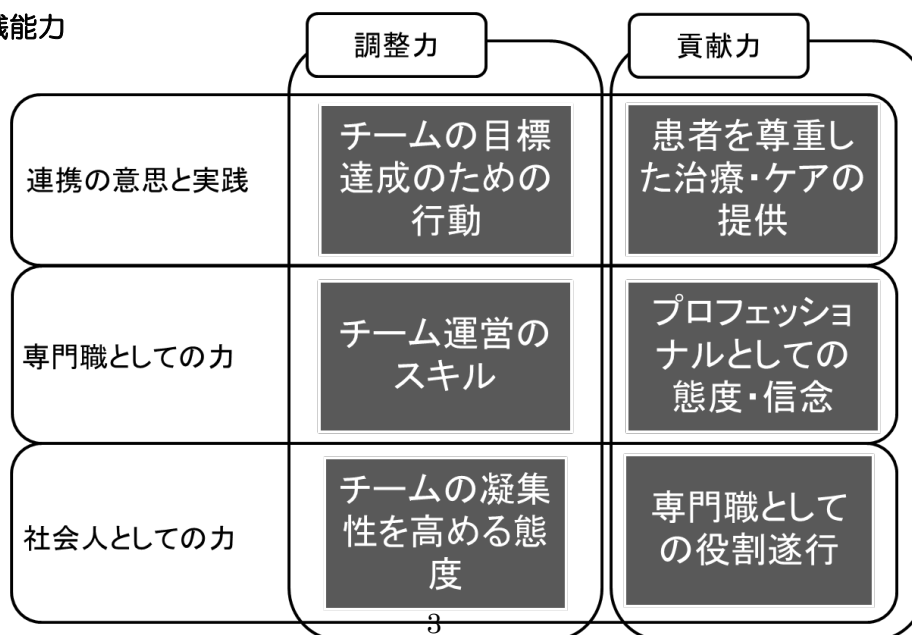
亥鼻 IPE で育成する「専門職連携実践能力」は、ひとつに限定されるものではありません。これまでの研究によって、チームや組織の連携をうまく調整するための調整力、および、専門職として提供する治療やケアに貢献するための貢献力の2つに大別されることがわかっています。

それらを分類し、亥鼻 IPE では、以下 I～VI の能力を「専門職連携実践能力」として定義しています。各 Step の学習到達目標や学習内容は、これらの能力を段階的に身につけるために設定されています。

専門職連携実践能力と各 Step での学習到達目標

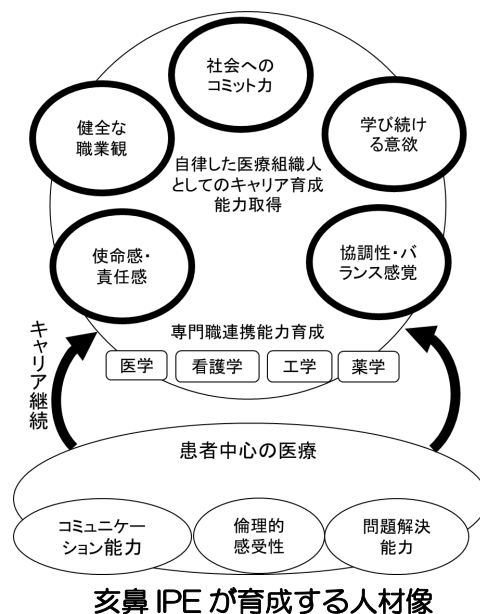
	Step1	Step2	Step3	Step4
専門職連携実践能力	専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力を身につける。Step1の終了時、学生は以下のことができる。	チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力を身につける。Step2の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力を身につける。Step3の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。Step4の終了時、学生は以下のことができる。
I. チームの目標達成のための行動	チームの取り組みと成果を説明できる	チームの目的達成に向け、自分の行動を調整できる	チームの目標達成のために、チーム内の対立を解決できる	チームの目標達成のために、チーム状況を評価し、自己の実践を決定できる
II. チーム運営のスキル	チームメンバーそれぞれの専門領域の役割機能を理解し尊重できる	チームづくりに必要な基礎知識とスキルを理解し、自分のチームに活用できる	対立及び対立の解決について説明でき、チームで生じている対立に気づくことができる	チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいてチームメンバーと協力できる
III. チームの凝集性を高める態度	チームメンバー、他の専門職及び教員と肯定的なコミュニケーションをとることができる	他の専門職や教員、チームメンバーと、チームの目標達成のために有効なコミュニケーションをとることができる	患者・サービス利用者の治療ケアのあり方について、チームメンバーと率直に話し合うことができる	チームメンバーおよびかかわる多様な専門職と、良好な人間関係のもと、話しやすい雰囲気を作ることができる
IV. 患者を尊重した治療・ケアの提供	患者・サービス利用者とのコミュニケーションから、患者・サービス利用者の体験と希望を理解できる	医療福祉サービスおよび行われているケアを患者・サービス利用者の自律および自立の観点から説明できる	複数の問題解決案の中から、患者・サービス利用者らの意思を尊重した最も良い方法を、チームとして選択できる	患者・サービス利用者への全人的評価に基づいた退院計画を、チームとして立案できる
V. プロフェッショナルとしての態度・信念	専門職として成長するために何が必要かを考えることができる	実際に行われているケアの根拠と理由を(説明を受けて)理解できる	学生の立場から専門職としてあるべき姿を考えることができる	専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識を退院計画に反映できる
VI. 専門職としての役割遂行	チームの目標達成のために自己の責任を果たすことができる	医療、保健、福祉の場における各専門職の役割機能を説明できる	学生として現在保有している専門的知識と判断に基づいて、チームメンバーに意見を述べるることができる	自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を学生の立場から説明できる

専門職連携実践能力



さらに、6つの専門職連携実践能力を身につけていく上で前提となるのが、患者・サービス利用者を中心においた、「コミュニケーション能力」、「倫理的感受性と医療者としての倫理観」、「問題解決能力」です。

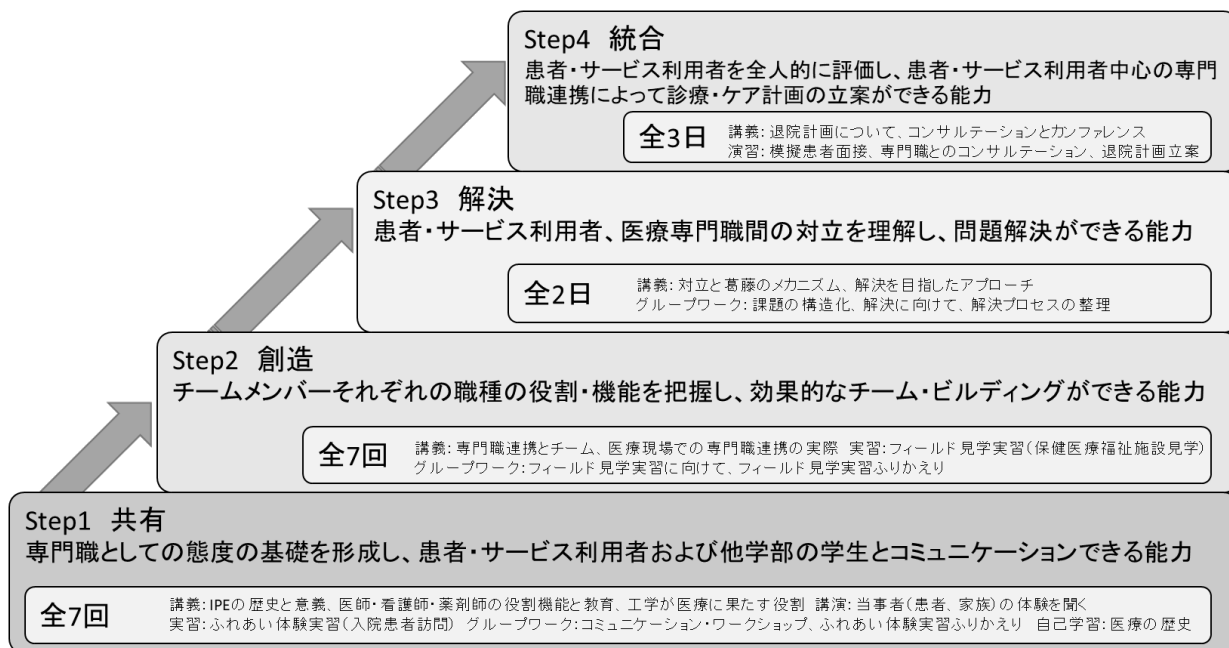
連携を通して学び合う姿勢と、これらの能力を総合的に身につけることで、「自律した医療組織人」として、健全な職業観、社会へのコミット力、使命感や責任感、協調性やバランス感覚、学び続ける意欲を備え、自らのキャリアを継続的に発展させることができます。



亥鼻 IPE が育成する人材像

IV. 亥鼻 IPE の内容

亥鼻 IPE は、Step1（1年次生）から Step4（4年次生）まで、4つのステップから構成された、段階的かつ総合的な教育プログラムです。



亥鼻 IPE のカリキュラム

Step1「共有」は、患者やサービス利用者とふれあう体験、コミュニケーション・ワークショップや、数々のグループワークなどをおして、「専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力」を身につけるステップです。

Step2「創造」は、保健、医療、福祉現場での見学実習やグループワークをとおして、「チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力」を身につけるステップです。

Step3「解決」は、専門職チームにおける意志決定、倫理調整をチームで取り組むことで、「患者・サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力」を身につけるステップです。

Step4「統合」は、Step1 から積み上げてきた IPE に関する学びと、それぞれの専門分野の学びを統合し、チームで退院計画の作成に取り組むことで、「患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力」を身につけるステップです。

以上の 4 つのステップをとおして、高い専門性と患者・サービス利用者のためにという意識をもち、自律しつつ、さまざまな専門職と連携し、お互いを高めあい、学ぶことをつづけていく、そのような「自律した医療組織人」の育成を目指しています。

V. 亥鼻 IPE の原則—グラウンド・ルール

亥鼻 IPE ではグラウンド・ルール（基本原則）を設定しています。効果的でお互い学び合える IPE としていくために、以下のグラウンド・ルールをつねに心に留めて行動しましょう。

亥鼻 IPE グラウンド・ルール

亥鼻 IPE では、患者・サービス利用者中心という理念のもと、お互いの能力を発揮し、学び合うという姿勢をもち、お互いの行動や役割に関心を注いで、目標到達に向けて協力し合う

- ・チームの目標を明確にし、関連する情報を共有する
- ・チームメンバーそれぞれの専門性や長所を活かし、補い合って、あきらめずに取り組む
- ・一人ひとりが積極的に発言・行動し、チームに貢献する
- ・自分たちにしかわからない専門用語は避けるか、説明する
- ・お互いの発言をよく聴き、感じ良く話し合う
- ・対立や葛藤を回避せず、お互いの考えを確認しながらチームの合意を形成する

このグラウンド・ルールは、学生のみでなく、教員や、専門職も、亥鼻 IPE にかかわるすべての人が守ります。教員や専門職は、学生が十分に思考力・判断力をもった成人であることを認め、学生が主体的に考え、行動し、学習目標を達成できるように援助し支援する責任と役割をもっています。

VI. 亥鼻 IPE の学習方法

1. 体験による学習

実際の患者・サービス利用者、医療専門職と向き合う体験を通して学びます。

Step1…ふれあい体験実習（患者・サービス利用者とふれあい体験や気持ちを理解する）

Step2…フィールド見学実習（実際の医療現場での連携のあり方を見学する）

Step3…対立の解決（医療現場で起こりうる対立を分析し、解決に向けた合意形成を行う）

Step4…退院計画立案（最前線の医療専門職に相談しながら退院計画を立てる）

上記の課題は、各学年の学習段階に比べて難易度の高いものです。このような困難な課題は、自分一人の力だけで達成することはできません。知恵と力を出し合いながら目標を達成し、その体験を通して、連携に関する学びを深め、能力を身につけていきます。

2. グループワークによる学習

3～4学部混成の4～5人からなるグループ、あるいはグループを2つ合わせた8～9人のユニットで、グループワークをおこないます。

「亥鼻 IPE グランド・ルール」を意識しながら、目標達成に向けて、一人ひとりが専門性を出し合い、協力して課題に取り組みましょう。異なる専門領域の学生と学び合い、助け合う体験は、専門職連携実践の基盤であるメンバー間の信頼を実感できる貴重な機会となります。グループでの学習によって自分を見つめ直すとともに、お互いを知り、連携していく姿勢や能力を修得していきましょう。

3. ふりかえりによる学習—リフレクションとポートフォリオ

体験やグループワークでの学習で大切なのは、その場で体験したことや考えたことを、記録として蓄積させていくことです。それによって、体験を一過性のものにせず、自らの考えや行動の変化を可視化することができます。

リフレクション…「内省」あるいは「省察」の意味。つまり「振り返って考える」ということです。自分の行動、気持ち、考え方の変化を自覚することで、体験から学びを抽出することができます。日々実践しながらリフレクションし、リフレクションしながら実践するという学習態度は、医療専門職にとって不可欠なものです。

リフレクションシート…リフレクションの習慣を身につけるため、毎回の授業後「授業の記録/リフレクションシート」を提出します。「授業の記録」には、授業の内容に関する事実（講義内容、実習・グループワークでの議論内容、自分の行った役割など）を記録します。一方「リフレクションシート」は、事実から学んだこと、気づいたこと、今後への課題など、自分自身で考えたことを記録します。事実と、自分の考えを明確に分けて認識、記録することも、医療専門職に求められる習慣です。

ポートフォリオ…学習内容の蓄積、つまり、亥鼻 IPE で学んだことを目に見える形にまとめたものが「亥鼻 IPE ポートフォリオ」です。授業での配布物、毎回の「授業の記録/リフレクションシート」、個人やグループでの提出課題を、個人でファイリングし、学習過程を可視化しましょう。紙媒体でのファイリングでもよいし、電子媒体でのファイリングでもよいです。

VII. 学習管理システム

亥鼻 IPE では、インターネット上での学習管理システム（Learning Management System：LMS）を活用しています。

1. 千葉大学 moodle（授業全体の連絡、課題提出等）

亥鼻 IPE では、授業開始前の事前課題から毎回の授業に関連した連絡、課題提出までを、千葉大学 moodle という学習管理システムを活用して行っています。日頃から千葉大学 moodle にログインし、情報を確認するようにしてください。

2. Google Classroom（グループワークシート・学習成果発表会用発表資料）

亥鼻 IPE では、グループワークシートを Google Classroom 上に置き、学生全員が書き込めるようにしてグループワークを行います。入学時に配布される千葉大学 Google アカウントでサインインできるようにしておきましょう。

VIII. 提出課題と提出方法

亥鼻 IPE では、その学習成果を正當に評価するため、さまざまな課題を課しています。各 Step でグループでの提出課題は違いますが、個人の提出物は全体を通して共通です。**提出期限厳守**です。

種類	提出者	提出物	提出方法	提出期限
初回授業 開始前	個人	事前課題 各 Step により異なる。 Moodle で確認。	千葉大学 moodle (オンライン回答)	初回授業開始前日 17 時
毎回授業 での提出 課題	個人	①自己評価 ②授業の記録/リフレクショ ンシート	千葉大学 moodle (オンライン回答・ ファイル送信)	Step1,2 翌週授業前日 17 時 Step3,4 Moodle 上で指示
	グループ	各 Step により異なる。Moodle 上で指示する。		
最終授業 終了後の 提出課題	個人	①グループ評価 ②最終レポート ③事後アンケート	千葉大学 moodle (オンライン回答・ ファイル送信)	最終授業終了 2 週間目の 前日 17 時 (授業が水曜の Step1 は、 2 週後火曜 17 時まで)

※Step によって課題の内容が異なります。期限や方法については、各 Step の Moodle 上のコースで確認してください。

IX. 評価方法

みなさんの成績評価は、実践の評価（出席、講義やグループワークへの参加態度や貢献度、授業の記録/リフレクションシートの内容等）と、学習目標到達度の評価（グループ発表や成果物、レポート等）を加味して出されます。

以下のものを参考に、成績評価がおこなわれます。成績評価の担当者、評価方法（配点等）は学部によって異なります。

- ① 授業への出席状況 ※出席は、毎回カードリーダーで確認します。学生証を持参しましょう。
- ② 授業・グループワークへの参加態度や貢献度
- ③ 事前・事後アンケート、自己評価等への回答状況（内容は対象ではない）
- ④ 「授業の記録/リフレクションシート」の提出状況と内容
- ⑤ グループ発表の内容 ※評価基準のルーブリックを Step 毎に明示します
- ⑥ グループでの成果物（ポスター等）
- ⑦ 実習関係者（患者・サービス利用者や専門職）による評価
- ⑧ 小テスト ※Step によって有無が異なる
- ⑨ 「最終レポート」の提出状況と内容

（その他、学生のみなさんから亥鼻 IPE プログラムへの評価として、最終日後に「授業評価アンケート」を実施しています。また、事前事後でアンケートの回答内容がどのように変化したかの分析、学生からの要望、学習目標到達度の分析、教員自身のリフレクション、他大学などからの外部評価などを統合して、毎年プログラム改善を行っています。）

X. 持ち物

毎回の亥鼻 IPE には、以下二点を持参しましょう。

- ① 学生証を入れた亥鼻 IPE ネームホルダー（名札） ※学生証は出席確認に必要です。
- ② 亥鼻 IPE ポートフォリオ（学習ガイドと、学習の進め方を綴じたもの）

名札（初年度に配布されるネームホルダーに学生証を入れたもの）を身につけて授業に参加しましょう。名札の着用は、医療専門職に求められていることです。他学部学生や教員とのグループワーク、実習施設への訪問の際に必須ですので失くさないようにしましょう。

X I. わからないことがあれば…

- まずはグループメンバーに確認してみましょう。
- この「学習ガイド」をもう一度見なおしてください。
- 各 Step での授業については、Moodle の指示を確認しましょう。
※緊急時：地震や台風への対応情報は千葉大学 moodle に掲載されます。
- それでもわからないことがあれば、教員に質問してください。
- 亥鼻 IPE のウェブサイトも開設しています。 <https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

X II. 専門職連携教育研究センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）

平成 27 年 1 月 1 日に、千葉大学大学院看護学研究院に専門職連携教育研究センター（通称 IPERC：アイパーク：Interprofessional Education Research Center）が開設されました。IPERC は、超高齢社会とグローバル化に向けて、次世代を切り開く人材教育と専門職連携学の体系的構築を目指す、教育・実践・研究の総合センターです。

亥鼻 IPE の運営は、医学部・薬学部・看護学部それぞれの担当教員、協力教員、そして IPERC の教員が連携して行っています。IPERC はさらに、国内外の研究調査等を踏まえて亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化に取り組みます。また、病院内や地域、そして、その両者をつなぐ IPW のシステムや人材育成に関する研究によって、大学病院や総合病院、地域の医療と福祉を包括した IPW の促進を目指します。

今後、IPE・IPW に関心のある学生を対象としたプログラム等の推進も計画されています。

専門職連携教育研究センターweb ページ <https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

専門職連携教育研究センターFacebook <https://www.facebook.com/chibalPERC>

お問い合わせ先

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

（看護・医薬系総合教育研究棟南棟 1 階 187）

E-mail：inohana-ipe@office.chiba-u.jp

TEL：043-226-2614